

オプション講座

「アンリ・カルタン『複素函数論』を読む」*

第1回 講義報告†

数学工房‡

2008年5月14日 19:00～21:00

概要

まず、第I章第1節の形式的べき級数に関して、その定義、代数、位数、代入を中心に解説した。特に、形式的べき級数における位数の意義と、形式的べき級数の無限和が定められる認容族と標準形について、詳しく検討した。

1 形式的べき級数

1.1 形式的べき級数の代数

1.1.1 形式的べき級数

定義 1.1 K を可換体, x を文字とする. K の元を係数とし, 文字 x に関して収束を考慮しないで形式的に考えたべき級数

$$\sum_{\nu \geq 0} a(\nu)x^\nu \quad a(\nu) \in K \quad (\nu \in \mathbb{N}_0)$$

を, x に関する**形式的べき級数**という. 多項式全体の集合 $K[x]$ に対して, 形式的べき級数全体の集合を $K[[x]]$ と記す.

■注 以下, 本講義では, 形式的べき級数はラテン大文字で記し, 係数についてはテキストと異なり, 次のような数列 (写像) としての表記を用いる.

$$F(x) := \sum_{\nu \geq 0} \widehat{F}(\nu)x^\nu \quad \widehat{F}: \mathbb{N}_0 \longrightarrow K$$

形式的べき級数 F と数列 \widehat{F} は, 定義から明らかのように, 1:1 で対応している.

* 本講座では, Henri Cartan 著「複素函数論」を教科書として, 複素解析の基礎を学習する. 予習・復習を前提とし, 読みにくい場所, 問題にしていることは何か, そこに至る背景は何かなどといったことに焦点を絞って解説する. 高橋禮司訳 (岩波書店) の本は絶版であるが, 古書として入手可能である.

† reported by S.K.

‡ <http://www.sugakukobo.com>

1.1.2 加法とスカラー倍

定義 1.2 $F, G \in K[[x]]$ について, 2つの形式的べき級数の和を

$$(F + G)(x) := F(x) + G(x)$$

によって定め, また, 形式的べき級数と $\lambda \in K$ とのスカラー倍を

$$(\lambda F)(x) := \lambda(F(x))$$

と定める. なお, **加法単位 0** は **零級数** $\tilde{O}(x) = \sum_{v \geq 0} 0x^v$ である. これにより, 形式的べき級数の集合 $K[[x]]$ は線形空間の構造をもつ.

1.1.3 乗法

定義 1.3 $F, G \in K[[x]]$ について, 2つの形式的べき級数の積を

$$\begin{aligned} (FG)(x) &:= F(x)G(x) \\ &:= \sum_{\sigma \geq 0} \underbrace{\left(\sum_{v+\mu=\sigma} \widehat{F}(v)\widehat{G}(\mu) \right)}_{\text{数列の Cauchy 積}} x^\sigma \end{aligned}$$

と定める. すなわち, 形式的べき級数の積の係数は, 数列の Cauchy 積を用いて定義される.

$$\widehat{FG}(\sigma) := \sum_{v+\mu=\sigma} \widehat{F}(v)\widehat{G}(\mu)$$

次に, $K[[x]]$ の基本的な形式的べき級数

$$e_k(x) := \sum_{v \geq 0} \delta_k(v)x^v \quad (k \in \mathbb{N}_0)$$

$$\text{ただし, } \delta_k(v) := \begin{cases} 1 & (v = k) \\ 0 & (v \neq k) \end{cases}$$

を導入する. 以上により, $K[[x]]$ は K 上の可換代数をなす. なお, **乗法単位 1** は $e_0(x) = 1 + \sum_{v \geq 1} 0x^v$ である.

1.2 形式的べき級数の位数

1.2.1 位数

定義 1.4 $F \in K[[x]]$ について $F \neq 0$ とするとき, $\widehat{F}(v) \neq 0$ であるような最小の $v \in \mathbb{N}_0$ を F の**位数** (order) といい, $\omega(F)$ で表す. すなわち,

$$\omega(F) := \inf\{v \in \mathbb{N}_0 \mid \widehat{F}(v) \neq 0\}$$

ただし, $F = 0$ (零級数) のときは, $\omega(\tilde{O}) = +\infty$ と既約する.

■例

- | | | |
|--|---|--------------------------------|
| 1) $F(x) = \alpha_0 + \alpha_1 x + \alpha_2 x^2 + \dots$ | $\alpha_0 \neq 0$ の場合 | $\implies \omega(F) = 0$ |
| 2) $F(x) = \alpha_m x^m + \alpha_{m+1} x^{m+1} + \dots$ | $\alpha_j = 0$ ($0 \leq j \leq m-1$), $\alpha_m \neq 0$ の場合 | $\implies \omega(F) = m$ |
| 3) $F(x) = 0 + 0x + 0x^2 + \dots$ | 零級数 \tilde{O} の場合 | $\implies \omega(F) = +\infty$ |

1.2.2 位数の性質

命題 1.1 位数 $\omega : K[[x]] \rightarrow \mathbb{N}_0 \cup \{+\infty\}$ は次の性質を有する.

$F, G \in K[[x]]$, $\lambda \in K$ とすると,

- 1) $\omega(F + G) \geq \min\{\omega(F), \omega(G)\}$
- 2) $\omega(\lambda F) = \begin{cases} \omega(F) & (\lambda \neq 0) \\ +\infty & (\lambda = 0) \end{cases}$
- 3) $\omega(FG) = \omega(F) + \omega(G)$

命題 1.1 について, 発見的導出を行った.

1.2.3 $K[[x]]$ の部分集合

定理 1.1 整数 $k \in \mathbb{N}_0$ が与えられたとき, 位数が k 以上の形式的べき級数の部分集合

$$V_k := \{F \in K[[x]] \mid \omega(F) \geq k\} \quad k \in \mathbb{N}_0$$

に関して, 次のことが成立する.

- 1) V_k は $K[[x]]$ の線型部分空間である.
- 2) $\forall G \in K[[x]]$, $\forall F \in V_k$ について, $GF \in V_k$ である.

□ この性質を, V_k はイデアルという.

定理 1.1 を証明した.

1.2.4 集合族の和の条件

定義 1.5 形式的べき級数の集合族 $\{S_i(x)\}_{i \in I}$ が和をもつとは, いかなる整数 $k \in \mathbb{N}_0$ に対しても, 有限個の i を除けば位数 $\omega(S_i) \geq k$ が成り立つことと定める. すなわち, 位数が k 以下の S_i は有限個しかないので, **和**

$$S(x) = \sum_{i \in I} S_i(x)$$

が定義できるのである. 定義から, 位数 k 以下の S_i の個数は有限個であることを記号により記すと,

$$I_k := \left\{ i \in I \mid \omega(S_i) \leq k \right\} < \infty \quad (\forall k \in \mathbb{N}_0)$$

そして, この条件を満たす形式的べき級数の集合を仮に**認容族**と称する.

1.2.5 認容族の一般和

- 1) 認容族 $\{S_i\}_{i \in I}$ について, $S_i(x) = \sum_{\nu \geq 0} \widehat{S}_i(\nu) x^\nu$ とするとき,

ν 番目の項の係数は,

$$\left(\sum_{i \in I} \widehat{S}_i \right) (\nu) = \sum_{i \in I} \underbrace{\widehat{S}_i(\nu)}_{\substack{\text{高々} \\ |I_i| \text{ 個}}} \in K$$

であるので、その一般和 $S(x)$ は

$$\begin{aligned} S(x) &= \sum_{i \in I} S_i(x) \\ &= \sum_{v \geq 0} \left(\sum_{i \in I} \widehat{S}_i(v) \right) x^v \\ &= \sum_{v \geq 0} \left(\sum_{i \in I} \widehat{S}_i(v) \right) x^v \end{aligned}$$

と表され、 $S(x) \in K[[x]]$ である。

2) $e_k(x) := \sum_{v \geq 0} \delta_k(v)x^v$ とすると、 $\forall F \in K[[x]]$ は、

$$\begin{aligned} F &= \sum_{v \geq 0} \widehat{F}(v)e_v \\ &= \widehat{F}(0)e_0 + \widehat{F}(1)e_1 + \widehat{F}(2)e_2 + \cdots \end{aligned}$$

と表現でき、改めて認容族の和として定義される。ここで、 $\{\widehat{F}(v)e_v\}_{v \in \mathbb{N}_0}$ は認容族である。

3) $\omega(F) = k$ のとき、

$$F = \sum_{v \geq k} \widehat{F}(v)e_v \quad \widehat{F}(k) \neq 0$$

と表示される。

1.2.6 形式的べき級数の標準形

1) $e_\nu e_\mu = e_{\nu+\mu}$ に注意すると、位数 k の形式的べき級数は、

$$F = e_k \underbrace{\sum_{v \geq k} \widehat{F}(v)e_{v-k}}_{\substack{\text{単元として} \\ \text{逆元を持つ}}}$$

として、「位数の基本項 \times 単元」の標準形に表すことができる。

2) $F = e_m \sum_{v \geq m} \widehat{F}(v)e_{v-m}$, $G = e_n \sum_{v \geq n} \widehat{G}(v)e_{v-n}$ とすると、

$$FG = e_{m+n} \underbrace{\sum_{v \geq m} \widehat{F}(v)e_{v-m} \sum_{\mu \geq n} \widehat{G}(\mu)e_{\mu-n}}_{\text{ここが意味のある部分}}$$

1.3 形式的べき級数の形式的べき級数への代入

次に、形式的べき級数

$$S(x) = \sum_{v \geq 0} \widehat{S}(v)x^v, \quad T(y) = \sum_{\mu \geq 0} \widehat{T}(\mu)y^\mu$$

を考える。ここで、最も重要な条件として、 $\widehat{T}(0) = 0$ 、すなわち、 $\omega(T) \geq 1$ を仮定する。

このとき,

$$(S \circ T)(y) = S(T(y))$$

は意味を持つか (形式的べき級数であるか) どうかを検討する.

$$\begin{aligned}\omega(\widehat{S}(v)(T(y))^v) &= \begin{cases} \infty & (\widehat{S}(v) = 0) \\ v\omega(T) & (\widehat{S}(v) \neq 0) \end{cases} \\ \therefore \omega(T^v) &= v\omega(T) \\ \therefore \left\{ \widehat{S}(v)(T(y))^v \right\}_{v \in \mathbb{N}_0} &\text{ は認容族である.} \\ \therefore S(T(y)) &:= \sum_{v \geq 0} \widehat{S}(v)(T(y))^v \in K[[x]]\end{aligned}$$

故に, $S(T(y))$ は意味を持つ.